

令和 5 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホームときわの里（すずらんの家）

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500147		
法人名	株式会社福祉伸		
事業所名	グループホームときわの里（すずらんの家）		
所在地	〒023-0826 岩手県奥州市水沢中田町4-19		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和6年3月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様同士が共に気遣いを持って過ごしている。お互い、尊重し合っている。</li> <li>・職員は利用者様に一日一回は楽しく笑っていただけるよう、努めている。</li> <li>・おやつ時は、手作りお菓子等を提供し、好評を得ている。</li> <li>・介護記録を電子化(タブレット使用)したことにより、業務効率化に繋げている。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来12年目を迎えた2ユニットのグループホームである。施設内に本部がある。グループホームときわの里と隣接して、特養と住宅型有料老人ホームがある。これらは、社会福祉法人が運営しており、創業者が同一である。職員は、理念に掲げる“利用者への寄り添い”のあり方を全員で共有しながら日々支援サービスに取り組んでいる。運営推進委員会は福祉や介護に識見豊かな方々がメンバーになっており、活発な意見交換や情報提供を通じて、事業所運営に貢献してもらっている。看護師が両ユニットに配属され、利用者や職員に健康管理面や医療面で安心感を与えている。介護ロボット(眠りスキャン)を10台設置することで、利用者の睡眠や離床を確認することができ、事故防止や安全対策に繋がっている。8月初めに一方のユニットでコロナのクラスターが発生し、危機管理の重要性を再認識したが、来年こそは利用者の外出機会を増やすとともに、地域との交流を復活させたいとしている。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月14日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホームときわの里 (すずらの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示し、職員全員が共有し、安心して生活できるよう利用者様に寄り添った支援に努めている。	理念は12年前の開設当初、職員の話し合いで定めたもので、職員は、利用者が理念に掲げる「ありのままの利用者に寄り添いながら、利用者が明るい笑顔と声の絶えない生活」を送れるよう、一人一人の心身の状態にあったケアプランの目標設定を行い、理念に沿った介護サービスの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園の慰問受け入れや、地域の行事への参加、市のマラソン大会応援を行っていたが、感染対策の為にできていないが、理容、訪問歯科診療は行っている。	地域との交流は、コロナ以前にまだ戻っておらず、幼稚園、小学校、中学校との交流は様子見の状況になっている。こうした中、市民認知症支援団体の「ぬくもり隊」のボランティアが利用者と一緒に花の苗をプランターに植えてくれた。また、コロナ禍以前は、水沢農業高校の訪問で隣接の特養の利用者と一緒に田植え踊りを楽しんでいたが、令和元年が最後となり5年度は実施できていない。来年はコロナ以前の交流を復活させたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページを公開し、利用者様の様子などを積極的に発信している。遠隔地(海外含む)の家族より喜ばれている。またH30年度より、隔月で「ときわの里だより」(紙媒体とHP公開)を発行し、介護に関する情報も掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、行政、家族の代表者、地区の代表者に参加してもらい、ホームの状況報告等話し合い、サービス向上に活かしている。	本年度からは、会議形式で開催できるようになった。両ユニットの入居状況や行事、会議等の運営状況の報告を行い、意見をいただいている。事故、感染症などのリスク管理や家族からの要望等への対応について、市の介護給付適正化指導員である委員を中心にメンバーが熱心に話し合い、密度の濃い会議になっている。会議録もきちんと記録され、職員で共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公的機関に出向き、積極的に助言協力をいただいている。H29年度の厚生労働省の介護ロボット補助事業で介護ロボットを導入、またR4年度、家族面会室と玄関室の整備を行い支援を受けている。	「眠りスキャン(介護ロボット)」10台設置や玄関・家族面談室の整備の際、助言、指導を得て市の補助金交付を受けた。担当者と電話や直接訪問により日常的に情報交換を行うなど、連携は円滑に行われている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームときわの里 (すずらの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で気づいたことをその都度話し合い、また家族と連携をとって拘束ゼロに取り組んでいる。	事業所では、職員全員で構成する「サービス向上委員会」の中に、「身体拘束防止部会」を設け、3か月毎に身体拘束や虐待の防止について話し合い、研修も行っている。スピーチロック対策として、現場で気づいた際には、その時にいた別の職員が変わるなどの対応を取っているが、職員の問題意識を高める必要があり、研修の充実を図りたいとしている。現在、身体拘束を必要とする人はいない。玄関の施錠を行っている。	身体拘束廃止や虐待防止に関する委員会は、「感染症対策委員会」とともに、令和6年度から義務設置となることから、現在の「サービス向上委員会」の「身体拘束防止部会」を委員会に格上げし、本来の介護サービスの質向上を図るための委員会と別建ての委員会設置を検討することを期待します。その際には、第三者に入ってもらった観点から、身体拘束、虐待、感染症の3委員会と運営推進会議との一体的な運営も可能であることから、その是非について検討されることも望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サービス向上委員会で身体拘束・虐待防止マニュアルを作成し、職員会議などで話し合い情報を共有し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員がその内容をサービス向上委員会で報告し、学ぶ機会を持つようになっている。現在はユニット会議の際にネット配信研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、または入居後、その都度、説明をし理解を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けたり、運営推進委員会の資料、議事録を、閲覧可能にしている。市派遣の介護相談員を年2回受け入れている。またご家族がいらした時に、話しかけ要望を聞いている。	昨年7月末、面会室を玄関脇に整備し、面会時、利用者と家族は透明なパーテーション越しに会話している。また、リモート面会時にはタブレットを使用し会話をしている。居室担当者が利用者一人一人の生活の様子を簡潔にまとめたお便りを毎月家族に送付しており、家族からの事業所運営に関する意見等の返信をお願いしている。面会やかかりつけ医への通院同行で来所した際にも、運営に関する意見や要望を聴取しているが、運営に関する意見等は出されていない。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームときわの里 (すずらの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、代表者と面談する機会を定期的に設けており、意見を吸い上げている。また、職員会議での意見も、会社全体の会議で共有し、反映している。	管理者は、日々の申し送り時や毎月定例の職員会議で職員の意見や要望を確認している。会社代表は、毎日のように顔を出し職員と気軽に意見を交わしている。年1回は会社代表や管理者が個別に面談を行い、メンタルヘルスも含め、職員の意見や要望を聴取している。管理者は、会社として検討を要する職員からの提案については、会社の全体会議に諮り、ホームの運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	都度、代表者との個別面談の機会を設け、職員の話の聞いている。また職員の意欲の向上を考え、就業規則、賃金体系の改定を社会保険労務士を入れて進めている。スマホを使った出退勤打刻ができ、自分の勤務状況が確認できる。給与明細もスマホから確認できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の申し込みを掲示し、研修の参加を促している。外へ出る機会が難しい為、オンデマンドのネット研修を会社で契約している。1,000を超えるコンテンツが更新をされ常に最新の情報を得られる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームページでホームの情報を発信し身近に感じられる取り組みを行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者一人ひとりに対し、傾聴し、不安要素を取り除くよう接し、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っていることや困っていることに耳を傾け、関係づくりに努めている。また利用者様本人の希望も取り入れ、安心できる支援をするよう努めている。		



令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームときわの里 (すずらの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期ケアプランやアセスメントで情報を職員全員が目を通し、支援の内容を話しあいながら進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する際、相手の立場になって介護するよう努めている。利用者様ができること(モップがけ、洗濯物干し、など)を一緒に行いながら、本人の尊厳を守り、共に生活する関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の写真入りの手紙で利用者様の写真も載せ近況を伝え、家族との絆を大切にしている。認知症でわからなくなったことへの不安を傾聴し、まだできることを家族と相談しながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族面会室で、感染対策に気を付けながら面会を行っている。遠方のご家族様などには、リモート面会を取り入れている。	なでしこユニットには年に1、2度電話をくれる友人や昔の山登り仲間が訪ねて来てくれる利用者があるが、家族以外の知人、友人との交流は殆どなくなっている。軽自動車ユニット交互に2人ずつドライブに出掛けるが、希望により生家の近くや思い出のある場所を廻ったりすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食事の席など考慮し孤立しないよう配慮している。毎日のレクリエーションで利用者同士が関われるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからの支援は難しいところがあるが、入院中の様子や、他施設の情報提供など、可能な範囲で支援に努めている。		

事業所名 : グループホームときわの里 (すずらの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの毎日の生活ペースを把握し、希望や意向を聞き取りサービスを提供できるよう努めている。	自分の思いや意向を表わすことはできるが、答えに時間がかかる人が多く、職員は待つ姿勢を持って把握に努めている。答えを選択してもらうような問いかけも工夫している。把握した一人一人の日々の暮らしへの思いや希望はタブレットを使用し、介護記録として入力し、職員間で共有しながら、ケアプランにも反映させ介護サービスの提供に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に訪問し、本人や家族から生活歴などを職員間で共有している。また本人に聞いたり、ご家族に聞いたりしながら、これまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話や行動などを個別ケースに記録し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットの定例会議で、ケース検討をし、介護計画の意見を出し合っている。	ユニット毎に、毎月定例の職員会議の中で、利用者全員について、居室担当者の資料をもとにモニタリングを行い、ケアプランの実施状況の確認を行いながら課題がないか話し合い、結果をもとに計画作成担当者が目標について必要な修正を行っている。ケアプランは6ヵ月毎に見直しを行うが、必要に応じ、家族やかかりつけ医師からの意見を活かすようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事務職員を含めた毎朝の申し送りや業務日誌、個別ケースで情報共有をし、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に変化があれば、その都度要望に応じて支援できるようにしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームときわの里 (すずらの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花植えのボランティア受け入れを行っている。幼稚園の慰問受け入れを行っていたが、感染対策の為、交流が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎回、医療連携シートに本人の状況を記録して、かかりつけ医と連携をとっている。かかりつけ医からの返信もいただき、支援にいかしている。	殆どの利用者が利用開始前からのかかりつけ医に家族同伴で定期に通院している。「医療連携シート」により、事業所での状況を伝え、指示をもらうなど、医師との連携、協力は円滑に行われている。家族に都合がある時は、シルバー人材センターに同行を依頼している。歯科については、向かいの歯科医院に定期的訪問検診をお願いしている。両ユニットに配置された看護師は、日常的に他の介護職員とローテーションを組んで介護に従事し、適時に助言や指導を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニット毎に看護職員がいるので、何かあれば看護職員に相談し、薬局に相談したり、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	カンファレンスを行い、病院関係者との関係づくりを行っている。また困難事例があった場合に、医療連携室に相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として看取り講習を行い、終末期のあり方の対応などを勉強していたが、今は感染予防の為、集合の講習は行われていない。家族と面談をし、職員間でも話し合いを行い、支援に取り組んでいる。	重度化及び看取りに関する指針はあるが、終末期の対応については明確な記述がない。現状では、状況により利用者それぞれのかかりつけ医に相談することにしており、ホームとして特定の医師と看取りに関する契約は結んでいない。4、5年前に1名を看取った経験がある。現在、看取りの対象になる利用者はいないが、今後備え、職員がネット配信により看取りの勉強を行っている。身体のリハビリについては、病気の無い限り、事業所で介護支援を行うこととしている。	職員がネットによる看取り講習を受講するなど、事業所として終末期への対応に積極的な姿勢が見られます。今後、看取り対応について、看取りを行ってくれる医師との医療連携体制を築くことが期待されます。

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームときわの里 (すずらの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、研修会を行うなど、実践できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、避難経路を各職員が把握している。	春は火災、秋は地震の定期避難訓練を実施し、隣接する特養の避難訓練にも参加している。昨年は夜間想定訓練を実施したが、今年は未実施となっている。系列のグループホームの避難場所となっており、訓練に協力することで事業所として参考になっている。近隣にはサイレンで訓練を知らせているが、協力依頼は特に行っていない。非常食3日分、避難用備品等を用意しているが、自家発電装置は備えていない。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった声かけや話し方に気をつけている。特に排泄介助などは注意している。	理念に掲げる「一人一人に寄り添う」ため相手の立場に立つことを基本に、尊厳、プライドを大切にしながら声かけを行い、排泄時にトイレの戸を開けたままにしないよう気を付けている。利用者が日々の行動等を自分で決められるよう、選択できるような問いかけを行い、急がせることなく時間をかけて返答を待つように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を汲み取り、自己決定ができるように、返答を待つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先するのではなく、利用者様本人のペースに合わせて、無理強いをしないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用したり、衣服を利用者様本人に選んでもらっている。髪を切る時は、自分の好みを伝えてもらっている。		



令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームときわの里 (すずらの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れている。お盆拭き、テーブル拭きなど一緒にしている。	担当職員が献立を作成し、ユニット毎に調理を行っている。利用者の希望を取り入れながら、季節にあった食材を使い、行事食も工夫している。食器も温かみを感じられるものを揃え、殆どの利用者が介助なく職員に見守られながら食事を楽しんでいる。週一で来る訪問販売のパンをお小遣いで買い、おやつにしている利用者もいる。利用者はテーブル拭き、モップがけ等できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、健康管理に役立てている。また、トロミ剤を使用したり、食べやすいように形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様本人で磨いた後、職員がチェックし、仕上げ磨きを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけで誘導している。排便困難な場合は、腹圧をかけたリマッサージをしたり、運動を促すよう支援している。	すずらんユニットに布パンツで自立している人が2名いるが、大部分の利用者はリハビリパンツにパットを使用し、声かけ誘導でトイレに向かう。なでしこユニットの車椅子の人は職員2人の介助によりトイレで排泄してもらっている。夜間は、介護ロボットで就寝時の様子を確認しながら、声かけ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけを行っている。新聞2紙を2ユニット間で交換するため、利用者様に新聞配達をお願いし、運動を促している。薬を使った排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、入浴を楽しんでいただけるよう、時間をゆっくりとっている。入浴中は、歌をうたったり、昔話を聞いたりしてリラックスしていただいている。	両ユニットとも、週2回午前中の中の入浴になっている。すずらんユニットにリフト浴があり、なでしこユニットの車いすの人が利用している。職員は、背中等自分で洗えない箇所のお手伝いをしている。着脱に介助が必要な人もいるが、見守り中心の支援になっている。利用者は、職員と会話したり、歌を口ずさんだりしながら、ゆっくりと入浴を楽しんでいる。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームときわの里 (すずらの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで横になったりと、利用者様本人の生活ペースに合わせて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報紙で、服薬内容を確認し、服薬時も誤薬などないように数人の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様と一緒に壁面の飾りを作成したり、洗濯物たたみ、食器拭き等、残存能力を活かしている。歌をうたう、絵を描く、頭の体操などレクリエーションを毎日行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外に散歩に出たり、花壇をみたり、ゴミ捨てと一緒にいたりしている。また家族の協力で、通院時を利用して、外食を楽しんでいたが、感染対策の為、今は控えてもらっている。	コロナ感染予防のため戸外に出掛ける機会は少ないが、天気のいい日は事業所の花壇の手入れや敷地内を散歩している。家族の同伴で通院した帰路、外食する機会をつくっていたが、最近では自粛してもらっている。季節に合わせ、お花見や紅葉狩りに何人かずつでドライブがてら出掛けている。来年こそは外出の機会を増やしたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に一度のパンの訪問販売を利用して、職員と一緒に買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を取り次いでいる。はがきや手紙は、部屋に飾って眺めることができるよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームときわの里 (すずらの家)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に飾り付けを行い、居心地良く過ごせるよう努めている。行事等の利用者様の写真を掲示している。窓を開けることで、外気を入れるなどして湿度、温度管理をしている。	両ユニットは玄関を挟んで北東、西南方向に左右対称の設計になっており、アコーディオンカーテンで仕切られている。廊下はなく、細長いホールの両側が居室になっており、ホールに集まりやすい造りになっている。居室に並んで8畳の和室があり、多目的に使われている。行事のスナップ写真や季節の花が飾られ、エアコンと床暖房で空調にも配慮し、居心地よく過ごせ、利用者は4脚のテーブルの指定席でくつろいでいる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やホール、玄関前にソファを置き、利用者様が自由に過ごせるよう居場所の工夫を行っている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、アルバム、本など使い慣れたもの、思い出のあるものなどを居室に置き、安心した生活がおくれるよう支援している。	居室の出入り口には、大きな文字で「いろはにほへと」による表札が掛かっている。ベッド、クローゼット、飾り棚等が備えられ、家族と相談して馴染みの品々が持ちこまれ、自分好みの部屋づくりをしている。大きなクローゼットに衣類等が整理されており、簡素で清潔な感じの居室になっている。何人かの利用者は、職員の居室掃除に合わせ、モップ掛けをしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールを中心に個室の出入りが把握できるように設計されている。トイレは表示、浴室はのれんを掛け場所がわかるようにしている。手すりがついており、安全に移動できる。	